

# 年 報 7

平成 2 年 度

1991. 3

山梨県埋蔵文化財センター

# 年 報 7

平成 2 年度

1991. 3

山梨県埋蔵文化財センター

## 序

当埋蔵文化財センターが設立されてから、本年度で9年を経過し、いよいよ10年目に入ろうとしております。この間に当センターが発掘調査を行ってきた遺跡数は80を超え、刊行した報告書も65冊を数えております。これはとりもなおさず、開発行為のいかに多かったかを裏付けるものでありますが、反面、解明されてきた歴史的事実もまた多大なものがあります。これらの貴重な資料や研究の成果は報告書として刊行するほか、恒例になっております遺跡調査発表会や展示、県内外への資料の貸し出し等を通じて公開し、広く啓蒙普及活動を行ってまいりました。

本書は1990年度に当埋蔵文化財センターが行った発掘調査および試掘・分布調査の概要と遺跡調査発表会等の事業概要を報告するものであります。今年度は13遺跡の発掘調査と3事業にかかわる試掘調査を行いました。この中で、とくに県指定史跡である甲府城跡からは、金箔を施した瓦や鯨等が出土し注目を集めました。これらは織豊時代の天守閣に使われることが多く、その築造経過や天守閣の有無をめぐっての新たな論議がまき起こっております。また、櫛形町村前東A遺跡では、地表から3mも堆積した砂礫層の下から古墳時代初頭の遺構や土器群が発見され、遺跡発見と調査の難しさを再認識させられました。今後このような調査が増加することを考えると、新たな調査方法を確立していく必要性を強く感じております。

本年、県内の発掘件数はついに100件を超え、これからもますます増加する傾向にあります。甲西バイパス建設工事やリニア新実験線建設工事など大プロジェクトも目白押しの状況です。このような中で、破壊されれば二度と戻ることのない先人の残した貴重な財産である遺跡を保護し、また活用していくことがますます重要性を増してまいっております。これらのためにも、本書を有効にご利用いただき、遺跡の保護と活用に一層のご協力とご理解をいただければ幸甚であります。

1991年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 磯貝正義

# 目 次

## I 1990年度の事業概要

1	発掘調査	1
2	整理事業	1
3	発掘調査報告書	2
4	収蔵資料の貸し出し及び掲載	2
5	遺跡調査発表会	4
6	市町村埋蔵文化財発掘担当者研修会	5

## II 各遺跡の発掘調査概要

1	古代官衙・寺院址詳細分布調査	6
2	小坂遺跡	8
3	甲ッ原遺跡	10
4	塩川遺跡	12
5	甲府城跡（県指定史跡）	14
6	七ッ打C遺跡	16
7	村前東A遺跡	18
8	新居道下遺跡	20
9	観音溝遺跡	21
10	東山南・北遺跡	22
11	長田口遺跡	24
12	地耕免遺跡	26
13	獅子之前遺跡	28
14	八ヶ岳東南麓ほか遺跡分布調査	30
15	甲西バイパス地内試掘調査	32
16	東山梨合同庁舎建設予定地試掘調査	33

## III 県内の概況

1	調査の件数と状況	34
2	県内の主な発掘調査	35
	1990年度発掘調査一覧	36

# 例 言

1. 本書は、1990年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。
2. 本書の編集から刊行までの作業は、年報編集担当浅利司、保坂和博が行った。
3. 今年度の発掘調査一覧および資料の掲載は3月末日現在で集計したものである。
4. 第Ⅱ章に使用した遺跡位置図は1/25,000地形図である。

## 職 員 組 織

所 長	磯 貝 正 義
次 長	平 賀 徹
総務課課長	平 賀 徹
調査研究課課長	森 和 敏

### 総務担当

副 主 査	千 葉 善 和
主 事	三 井 徹 也
業 務 員	小 岩 井 昇
業 務 員	有 泉 百 合 恵
業 務 員	芹 沢 義 広

### 調査研究第1担当

主 査・文化財主事	末 木 健
主 査・文化財主事	小 林 広 和
主 任・文化財主事	八 巻 與 志 夫
主 任・文化財主事	保 坂 康 夫
(石和町教育委員会派遣 1990.5.21～91.3.31)	
文 化 財 主 事	浅 利 司
文 化 財 主 事	山 本 茂 樹
文 化 財 主 事	吉 岡 弘 樹
文 化 財 主 事	早 川 典 孝
文 化 財 主 事	今 福 利 恵
文 化 財 主 事	保 坂 和 博

### 調査研究第2担当

副主査・文化財主事	新 津 健
副主査・文化財主事	小 野 正 文
主 任・文化財主事	出 月 洋 文
主 任・文化財主事	米 田 明 調
文 化 財 主 事	中 山 誠 二
文 化 財 主 事	丸 山 哲 也
文 化 財 主 事	平 山 優
文 化 財 主 事	保 坂 裕 史
文 化 財 主 事	高 野 玄 明
文 化 財 主 事	森 原 明 廣

# I 1990年度の事業概要

## 1. 発掘調査

今年度は13遺跡の発掘調査と3事業にかかわる試掘調査を行い、その総面積は31,300㎡(試掘を除く)に及ぶ。調査の原因は道路建設10、ダム建設1、公園整備2、学術調査1、建物建設2となっている。調査は5月初旬から2月半ばまで行われ、主として12月以降を整理期間とした。各遺跡の概要についてはII章で述べることにする。



1990年度発掘調査位置図

番号	遺跡名	10	東山南・北遺跡
2	小坂遺跡	11	長田口遺跡
3	甲ツ原遺跡	12	地跡化遺跡
4	塩川遺跡	13	獅子之原遺跡
5	甲府城跡	14-1	八ヶ岳広域農道建設予定地
6	七ツ打C遺跡	14-2	まきば公園建設予定地
7	村前東A遺跡	14-3	県道塩部町間河橋建設予定地
8	新居道下遺跡	15	甲西バイパス建設予定地
9	観音溝遺跡	16	東山梨合同庁舎建設予定地

注1) 番号は、同表の遺跡名後に附した番号と合致する。  
2) 1は、県内全域を対象とした古代官衙・寺院址詳細分布調査であるため、ここには記載していない。

## 2. 整理事業

今年度は以下の整理を行った。

No.	遺 跡 名	発掘年度	事 業 名
1	古代官衙・寺院址詳細分布調査	1990	古代官衙・寺院址詳細分布調査
2	小坂遺跡	1990	八ヶ岳広域農道建設
3	甲ツ原遺跡	1990	県営八ヶ岳公園園路建設
4	塩川遺跡	1990	塩川ダム建設
5	甲府城跡(県指定史跡)	1990	舞鶴城整備
6	七ツ打C遺跡	1990	甲西バイパス建設
7	村前東A遺跡	1990	甲西バイパス建設
8	新居道下遺跡	1990	甲西バイパス建設
9	観音溝遺跡	1990	県道石橋石和線建設
10	東山南・北遺跡	1990	甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園整備

No.	遺 跡 名	発掘年度	事 業 名
11	長田口遺跡	1990	富士川西部広域農道建設
12	地耕免遺跡	1990	情報教育センター建設
13	獅子之前遺跡	1990	塩山バイパス建設
14	ハケ岳東南麓ほか遺跡分布調査	1990	ハケ岳広域農道建設
15	甲西バイパス地内試掘調査	1990	一般国道52号（甲西バイパス）建設
16	梅の木・青木北遺跡	1982	県営園場整備事業
17	善光寺北遺跡	1981	甲府北バイパス建設

### 3. 発掘調査報告書

今年度は以下の報告書を刊行した。

No.	報 告 書
第59集	上の平遺跡
第60集	セツ打C遺跡
第61集	獅子之前遺跡
第62集	観音溝遺跡
第63集	小坂遺跡
第64集	東山南（B）遺跡
第65集	県指定史跡甲府城跡Ⅰ

### 4. 収蔵資料の貸し出し及び掲載

今年度は以下の収蔵資料を貸し出した。

No.	貸出期間	申請物件名	申請者	利用目的
1	5.15～9.15	一の沢西遺跡出土土偶1点 上の平遺跡出土土偶1点 金生遺跡出土土偶（複製）2点 " 中空土偶1点	陶芸の森陶芸館	「土の発見」展に展示のため
2	7.3～9.14	安道寺遺跡出土土偶1点 金生遺跡出土土棒2点 一の沢西遺跡出土土器1点 一の沢西遺跡出土土偶1点 黒駒出土土偶（複製）1点 宮の前遺跡出土土器1点	兵庫県立歴史博物館	「願いかなえ たまえ」展に展示のため
3	7.10～9.14	安道寺遺跡出土顔面把手3点 上の平遺跡出土土偶3点 取無遺跡出土土偶1点 一の沢遺跡出土土偶2点 西田遺跡出土土偶1点 金生遺跡出土土偶10点	浦和市立郷土博物館	「縄文人とかお 腰」に展示のため

No.	貸出期間	申請物件名	申請者	利用目的
4	10.3～11.26	獅子之前遺跡出土水碓5点 花鳥山遺跡出土球根炭化物付き土器5点 水呑堀遺跡出土球根炭化物付き土器10点 花鳥山遺跡出土エゴマ炭化物5点 一の沢西遺跡出土蛇把手付き土器1点 金生遺跡出土耳飾5点 天神遺跡出土垂飾5点 復元有孔銅付土器2点 有孔銅付土器製造実験資料1点	釈迦堂遺跡博物館	「縄文人の道具展」に展示のため
5	10.26～11.4	花鳥山遺跡出土縄文土器5点 御坂町黒駒出土土偶(複製)1点	御坂町教育委員会	「御坂の古代展」に展示のため
6	10.29～11.4	丘の公園14番ホール遺跡出土石器32点 丘の公園第2遺跡出土石器22点 丘の公園第5遺跡出土石器13点 湯沢遺跡出土鉄器1点 青木北遺跡出土土器8点	高根町教育委員会	「高根の古代展」に展示のため
7	12.14～12.21	柳坪遺跡出土土器3点	石和町教育委員会	土器作り教室の参考資料として
8	1.29～4.5	桜井堀遺跡出土土器1点 鏡子塚古墳出土土器形埴輪1点 姥塚遺跡出土土器2点	栃木県立博物館	「古墳出現のなぞ」展に展示のため
9	3.5～3.30	丘の公園第2遺跡出土石器20点 柳坪遺跡出土土器5点 金の尾遺跡出土土器5点	石和町教育委員会	「最新発掘と古代の石和展」に展示のため

今年度は以下の掲載許可申請があり、許可した。

No.	日付	申請物件名	申請者	利用目的
1	4.2	釈迦堂遺跡出土土偶集合写真1点	徳河出書房新社	「夏休みこども時刻表」に掲載
2	4.6	一の沢西遺跡出土土器写真1点	同上	同上
3	4.12	花鳥山遺跡出土炭化種子塊写真1点	日本農業新聞社	「日本農業新聞」4月12日に掲載
4	4.12	一の沢西遺跡出土土偶写真1点 上の平遺跡出土土偶写真1点	滋賀県立陶芸の森	展示図録「土の発見」に掲載
5	5.11	安道寺遺跡出土土偶写真1点 金生遺跡出土土碑写真2点 一の沢西遺跡出土土偶写真1点 一の沢西遺跡出土土器写真1点 宮の前遺跡出土土器写真1点 金生遺跡配石遺構全景写真1点 宮の前遺跡土器状況写真1点	兵庫県立歴史博物館	展示図録「願いかなえたまえ」に掲載
6	5.25	釈迦堂遺跡出土土偶集合写真1点	佛学習研究社	「歴史群像」別冊に掲載
7	6.20	鏡子塚古墳俯視写真1点 丸山塚古墳 " 1点 馬鞍山古墳 " 1点 龜甲塚古墳出土登龍鏡写真1点 小平沢古墳出土神獸鏡写真1点	雄山閣出版部	「古墳時代の研究」第11巻に掲載
8	6.24	重郎塚遺跡出土土器写真1点	朝日新聞東京本社	「アエラ」7月3日号に掲載
9	7.8	四ツ塚古墳群A地点航空写真1点 竜王2号墳石室写真1点 " 出土馬具写真1点	雄山閣出版部	「古墳時代の研究」第11巻に掲載
10	7.18	金生遺跡配石遺構全景写真1点 釈迦堂遺跡出土土偶集合写真1点	佛集英社	「カラー版日本の歴史」第1巻に掲載

No	日付	申請物件名	申請者	利用目的
11	8. 10	鏡子塚古墳・丸山塚古墳航空写真1点 丸山塚古墳竪穴式石室写真1点 鏡子塚古墳竪穴式石室写真1点 鏡子塚古墳出土壺形埴輪写真1点	御紀行社	「図説日本の史跡」に掲載
12	9. 5	蔵福遺跡出土漆器模写真1点	柳室文堂	「出土漆器集成」に掲載
13	9. 28	天神遺跡調査状況写真1点	山梨郷土研究会	「郷土研究入門」に掲載
14	10. 31	桜井畑遺跡出土土器写真1点 鏡子塚古墳出土壺形埴輪写真1点 姥塚遺跡出土土器写真2点	栃木県立博物館	展示図録「古墳出現のなぜ」に掲載
15	10. 31	釈迦堂遺跡出土土偶集合写真ほか2点	小学館	「日本文化の源流」に掲載
16	1. 11	金生遺跡配石遺構全景写真1点	十日町市教育委員会	博物館の展示パネルに使用
17	1. 17	重郎源遺跡出土土器写真1点	柳葉英社	「カラー版日本の歴史」第1巻に掲載
18	1. 17	金生遺跡出土土偶写真ほか	大泉村教育委員会	遺跡説明版、パンフレット等に使用
19	1. 17	上の平遺跡顔面把手付き土器写真1点	多摩中央信用金庫	「多摩のあゆみ」第62号に掲載
20	2. 1	釈迦堂遺跡出土土偶集合写真ほか2点	鶴角川書店	「古代日本の祭式と思想」に掲載
21	2. 15	釈迦堂遺跡出土土偶集合写真1点	御文芸春秋	「古代日本七つの謎」に掲載

## 5. 遺跡調査発表会

当埋蔵文化財センターでは、県内で発掘調査された遺跡のうち、主なものについて山梨県考古学協会と共催で毎年2回の遺跡調査発表会を実施している。今年度は以下の8遺跡について行った。また、下半期の発表会では、本年度の県内埋蔵文化財の調査と保護について、県文化課から報告が行われている。以下これらの遺跡を取り上げ、その概要を述べていきたい。

◎1990年度上半期遺跡調査発表会概要（10. 13 於山梨学院大学）

### 1. 宮の前遺跡 韮崎市藤井町駒井字宮の前

宮の前遺跡については、奈良、平安時代を中心とした遺跡群で住居址425件、掘立柱建物54棟、弥生時代前期の水田址及び平安時代の水田址がそれぞれ1面ずつ、その他多くの遺構が検出されている。その中でも特に初段瓦痕の付着した土器片が出土しており、水田層の<sup>14</sup>C年代測定によると東日本最古の水田址となる。また、瓦塔の出土は県内初であり注目されるところである。

### 2. 土屋敷遺跡 甲府市古府中町字土屋敷

土屋敷遺跡は、現在の武田神社のある跡地に崎館北曲輪の西側に所在する。土屋敷は、土屋敷が短縮したものであり、江戸期の古絵図と考え合わせ、土屋右衛門尉昌次の屋敷跡であった可能性が高い。確認された遺構は、ほぼ50m四方の広さの区画を持ち、井戸・柱跡・水路・石列等が認められる。また、出土遺物には土師質の皿・内耳や瀬戸・美濃・常滑のほか中国の染め付け・白磁・青磁などがあり、16世紀中葉から後半にかけてのものであることが判明した。

### 3. 乙木田遺跡 塩山市竹森字乙木田

乙木田遺跡は、第2次の学術調査が行われた。特に縄文時代甲信地方の水晶石器加工と交流の研究の一環として取り組まれた。竪穴住居址3基以上、石器加工址1基、土坑2基など

が確認され、多量の水晶片が出土した。この時代の水晶加工址は全国的にも初の発見で、原石・剥片が多く出土していることから、水晶の石器加工・供給集落であった可能性が高く、水晶の産地別同定を経て水晶交易路の解明がなされようとしている。

4. 塩川遺跡 12頁参照

◎1990年度下半期遺跡調査発表会概要（3. 2 於甲斐風土記の丘研修センター）

5. 甲ツ原遺跡 10頁参照

6. 東山南・北遺跡 22頁参照

7. 甲斐国分尼寺遺跡 東八代郡一宮町東原字後地

甲斐国分尼寺遺跡は、国分尼寺跡が確認されてはいるもののその範囲についてはもう一つははっきりしたものがなかった。しかし、溝状遺構の検出によってこの溝が尼寺の区画を意識したものと思われることから、大まかではあるが尼寺の範囲が確定されるのではなかろうか。次に住居址のあり方であるが、時期別に見ていくと、国分尼寺の創建期と文献等から修復にかかわる時期ではなかろうかと解釈できることから、ある限られた時期だけの居住地として分けることができるようであると報告されている。

遺物としては、墨書土器の出土があり、遺跡の性格を表すものと考えられ、『和名抄』の中にある郷名を示していると考えられることから、本遺跡は大変興味深いものである。

8. 葛谷城遺跡 南巨摩郡南部町十島字峠

葛谷城遺跡については、古くから「烽火場」として知られていたのであるが、調査の結果城であったことが明らかとなった。土塁・曲輪・門の跡ではないかと思われる柱跡・堀等が確認された。城は、立地から見て静岡県と山梨県の県境にあり、堀が薬研堀を呈することから当初今川方によって造成されたと考えられ、その堀を埋めて武田方が造成したと想定される。この調査によって、県内の中世の山城の在り方が明確にされたといえる。

## 6. 市町村埋蔵文化財発掘担当者研修会

日時 1991年2月27日

場所 山梨県立考古博物館多目的室

研修テーマ 遺跡の探査法

当センターでは年に1回、市町村の埋蔵文化財発掘担当者を対象に研修会を実施している。本年は、国立奈良文化財研究所埋蔵文化財センター発掘技術研究室長の西村康氏を講師に招き、「遺跡の探査法」と題し講演をいただいた。電気探査法・磁気探査法・地中レーダ探査法を中心に、その原理からそれぞれの特徴、実際の適用方法などについての解説があった後、質疑応答が行われた。

## II 各遺跡の発掘調査概要

### 1. 古代官衙・寺院址詳細分布調査

調査対象地域	山梨県内全域
事業名	古代官衙・寺院址詳細分布調査
調査期間	1990年11月14日～1991年1月16日
担当者	末木 健、早川典孝

今年度は、文化庁からの補助金を受けて行う分布調査（5か年計画）の初年度にあたる。したがって、今回は、古代官衙・寺院址の指標となる布目瓦の表面採集を主に行った。調査件数は、官衙址2、現存寺院59、遺跡11、廃寺址26の合計98箇所である。

古代官衙の内、今回は国衙の調査を行った。しかし、目立った成果はなく、今後の試掘調査が要請される。なお、郡家については、来年度以降の課題である。続いて古代寺院址は、次に掲げる5点をもとに抽出した。

- ①『甲斐国志』および『甲斐国社記・寺記』で、開創年代を平安時代以前とするもの。
- ②平安時代以前の仏像を有するもの。
- ③従来から、布目瓦の散布地として知られる場所。
- ④古代寺院址と伝えられる場所。
- ⑤古代寺院址と思われる地名を残す場所。

以上により調査を行った結果、境川村大窪字温湯、御坂町成田字半行寺、一宮町国分寺址、同町国分尼寺址、同町大積寺址、春日居町寺本廃寺址、勝沼町大善寺、塩山市放光寺、同市七日子廃寺址、中道町円楽寺、同町心経寺址から、布目瓦を採集するに至った。年代は殆どが奈良～平安時代のものである。しかし、大善寺の瓦の中には、格子目叩きの文様をもつ白鳳期のものであった。これが、大善寺境内で採集されたものとすれば、寺本廃寺と同じ時期に寺院が存在していた可能性が高い。また、上野原町西光寺には、平安時代前期のものと思われる古碑（天長元年銘）が伝世されている。このことは、郡内でも、早い時期から寺院が存在していたことを示唆するものである。今後は、より確実な史料を収集することが必要となろう。なお、今回の調査ではないが、春日居町長谷寺からも平安時代の瓦が採集されている。

来年度は、表面採集を継続すると共に随時試掘も行っていく。と同時に、古代官衙・寺院址は、二転三転していることが多々あり、その変遷も追っていく予定である。



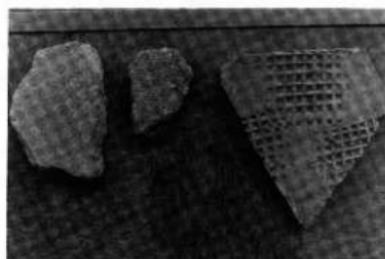
春日居町長谷寺境内



塩山市七日子院寺址



調査風景



勝沼町大善寺所蔵の瓦（右が白鳳期の瓦）



上野原西光寺所蔵の古碑



一宮町大積寺址

## 2. 小坂遺跡

所在地 北巨摩郡大泉村谷戸字小坂  
事業名 八ヶ岳広域農道建設事業  
調査期間 1990年5月14日～8月31日  
調査面積 2000㎡  
担当者 浅利 司、保坂和博



本遺跡は、甲府盆地の北西にあたる八ヶ岳南麓にあり、標高941mに立地している。遺跡の東側は、宮川が流れ深い崖となっている。

今回の調査は、八ヶ岳広域農道建設予定地における試掘調査によって遺物が確認され、遺跡の存在が予想されることから、幅約30m・長さ約62mの範囲において実施された。

検出された遺構は、住居址3軒、土坑23基であり、時期は伴出された遺物よりほぼ五領ヶ台式期に限られている。3軒の住居址の内プランがはっきりしているものは、2号住居址のみであり他は発掘区外に延びておりしっかりしたプランはとらえられなかった。また、1・2号住居址からは地床炉、3号住居址からは埋燗炉が確認され、1号住居址のものは瓢箪型に二つに分かれていた。土坑は、ほとんど不整形を呈し、規模は径1.2～2.2m深さは0.4～1.0mと一定しない。中でも8号土坑からは、十三菩提式末期の鉢が検出され、また15号土坑からは多量の黒曜石のチップ・フレイク等が検出され土坑の用途について検討すべき点がある。

遺物については、前にもふれたようにほぼ五領ヶ台式期に限られた土器群が出土しており、比較資料として良好であり、また黒曜石が多量に出土している。本遺跡においては、五領ヶ台式の沈線文系と細線文系が見られ、個々の住居址の出土状況に違いが見られるように思われる。黒曜石は総数約6000点が出土しており、その内原石9点、チップ3453点、フレイク1694点、及び石鏃・石錐・石匙等の製品が59点出土している。チップ・フレイク類は発掘区内において密に出土（特に1号住居址南側に多量出土）しており、石器製作の場所であったことがうかがわれる。

以上の発掘調査の成果により本遺跡は、八ヶ岳南麓における当時代の生活様式や黒曜石の流通を考える貴重な遺跡となると思われる。



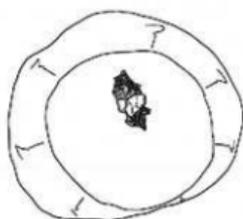
発掘風景



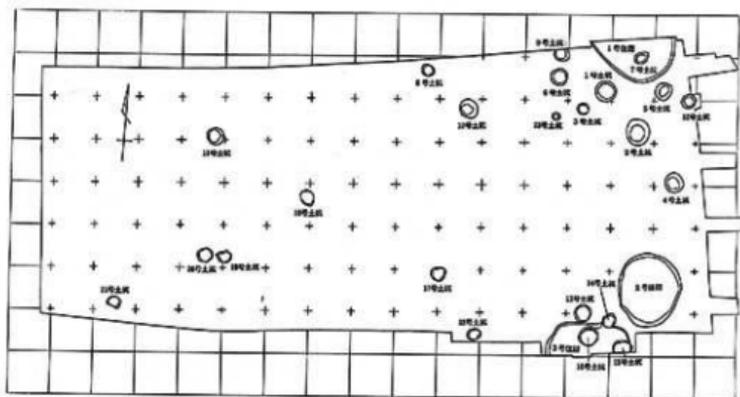
2号住居址



3号住居址遺物出土状況



8号土坑平面図



小坂遺跡全体図

(1グリット 4×4 m)

かぶつばら  
3. 甲ツ原遺跡

所在地 北巨摩郡大泉村西井出字大林  
事業名 県道須玉八ヶ岳公園線建設  
調査期間 1989年11月9日～1990年12月27日  
調査面積 3,000㎡  
担当者 山本茂樹、今福利恵



甲ツ原遺跡位置図

八ヶ岳南麓を流れる油川と甲川に挟まれた標高は800mほどの南傾する台地上に本遺跡は立地する。調査は県道の建設に伴って昨年度から継続して行われ、本年度は第2次であ

る。対象地域は昨年度に調査を実施した南側の部分（A区）と北側の試掘調査を行った部分（B区）で、未買収区を含めて、幅約8m、長さ約300mにわたる。

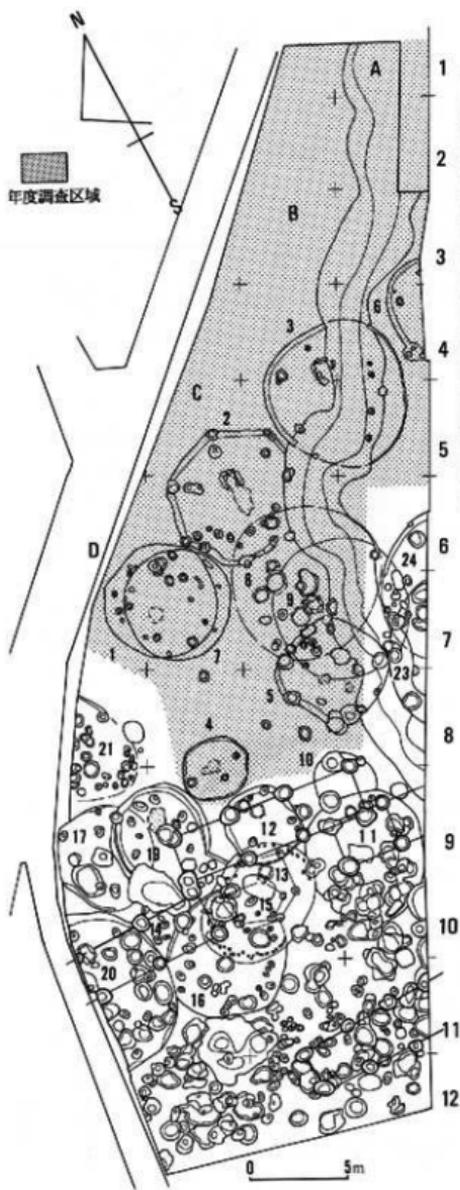
調査区域はもっとも遺構の集中する調査区南側部分をA区とし、他それより北側の部分をB区とした。A区では縄文時代前期と中期の集落址が、B区では縄文時代中期の集落址と平安時代の住居址が発見された。来年度以降さらにA区の南側部分を調査する予定である。

A区において今年度の調査では昨年度の調査結果も含めて、諸磯Ⅱ期の住居址5軒、井戸尻期の住居址2軒、曾利Ⅰ期の住居址3軒、曾利Ⅱ期の住居址3軒、曾利Ⅲ期の住居址3軒、曾利Ⅳ期の住居址1軒、時期不明の住居址5軒、計22軒の住居址が、多くの切り合い関係をもちながら検出された。また曾利Ⅳ～Ⅴ期と思われる独立柱建物址が4棟みつかっており、いずれも東西方向に主軸をもつ。このほか、土壇110基、旧河川一本、風倒木痕等がみついている。

独立柱建物址は県内で初めて確認されたもので、うち1号独立柱建物址は一間×三間、幅約3m、長さ約10mを測る。柱穴は径90cm前後、深さ約80cmである。他は調査区外に延びているため明確な規模は不明である。土壇は住居址群の南側に多く、諸磯期、井戸尻期、曾利期のものがみついている。旧河川は曾利Ⅴ期の23号住居址を切っており、少なくとも縄文時代後期以降に形成されたものである。

B区では、縄文中期の藤内期の住居址が5軒みついているほか、打製石斧を6本並べた一括埋納が発見された。A区より北側約170mに位置するが、その間は土器片や黒曜石が僅かにみられたのみで、該期の遺構は検出されなかった。平安時代の住居址は2軒重複してA区より約250m北側でみついている。このほか、時期不明の溝状遺構と旧河川が3本検出され、うち1本はA区に連続するものと思われる。

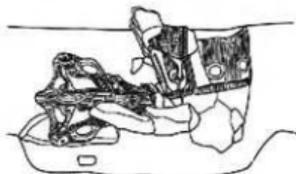
今回の調査結果より、調査区域はA区において集落の端から中心部分に相当すると思われる、来年度調査予定区域内の試掘結果より、直径約100m程の環状集落と推定される。



A区全体图



1号掘立柱建物址



7号土坑



7号土坑出土土器 (S=1/8)

#### しおかわ 4. 塩川遺跡

所在地 北巨摩郡須玉町小尾200番地ほか  
事業名 塩川ダム建設事業  
調査期間 1990年5月7日～11月7日  
調査面積 約4,000㎡  
担当者 保坂裕史、森原明廣



塩川遺跡位置図

本調査は、須玉町小尾における塩川ダム建設事業（塩川総合開発事業）に先立ち昨年度から2カ年計画で行われた調査である。

塩川は山梨県北地方の東部に位置し、その源流を奥秩父山系に発し約40kmの流路を経て富士川に合流する河川である。塩川遺跡は、この塩川最上流域にあたる左支流本谷川との合流点に位置する。周辺を山林に囲まれた谷底の狭い塩川左岸段丘上の遺跡である。

昨年度の調査では、A区・B区について縄文時代前期から近世に至るまでの遺構が数多く確認され、A区については調査を終了した。よって本年度は昨年度からの継続としてB区について調査を行った。

本年度の調査によって、検出された遺構は縄文時代（土坑7基、住居址2軒）・古墳時代（住居址1軒）・平安時代（住居址3軒）・中世（五輪塔集中区1地点）・近世（土壇墓54基）・時期不明（小pit群）などであり、それぞれ遺物も出土している。

縄文時代については中期後半の住居址・土坑などの他に、遺構は伴わないが前期の遺物が多く出土した。

古墳時代については“S字状口縁台付甕”を伴う住居址が1軒検出された。この“S字甕”は年代的に古い様相を示すものであり、山間部の出土例としてはあまり例を見ない。

平安時代については住居址が3軒検出され、墨書土器・内黒土器・甲突型甕なども出土している。山間部の小規模集落の好例となろう。

中世については内耳土器・摺鉢の他、茶臼も出土している。また、B区東側の山斜面からは焼人骨が埋葬された五輪塔集中区も検出された。戦国期、この地で辺境警備にあたったといわれる小尾衆（武田氏家臣団）と何らかの関わりのある集落がここに存在した可能性もあろう。

近世については土壇墓が54基検出された。煙管、陶磁器、銅銭、髪刺など多くの副葬品も出土し、昨年度調査分との合計墓壙数は128基となった。時期は江戸後期から末期に集中するものと考えられ、人骨の残存状況は良好である。近世山村集落の貴重な資料となるものである。

塩川遺跡は山間部の小さな遺跡ではあるが、交通の要所ともいえる立地のため様々な時代の重要な資料を提供する遺跡である。



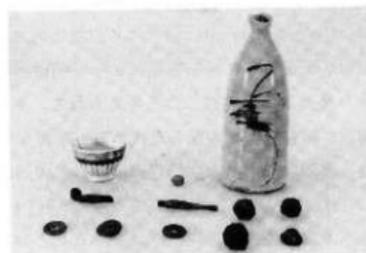
塩川遺跡B地区遠景



搥鉢・石臼出土状況



五輪塔集中区



第21号墓出土遺物



塩川遺跡B地区全体図

こうふじょう  
5. 甲府城跡 (県指定史跡)

所在地 甲府市丸の内一丁目5-49  
事業名 舞鶴城公園整備事業  
調査期間 1990年7月1日～1991年3月31日  
調査面積 約3,500㎡  
担当者 八巻與志夫、吉岡弘樹



県指定史跡 甲府城跡位置図

本調査は、本年度から10年計画で行われている舞鶴城公園整備計画に伴った調査である。

甲府城は、甲府市街地のほぼ中心にあり、愛宕山を東に背負い、西に荒川、釜無川を眺め、南に甲府盆地を一望におさめる位置にある。

築城は、天正11年に徳川家康によって開始され、天正18年から羽柴秀勝、加藤光泰、浅野長政が入り慶長5年頃完成したと考えられる。その後は徳川幕府の直轄地となり、城主も徳川忠長、綱重、綱豊、柳沢吉保らと代わり、享保9年勤番支配となり明治維新をむかえる。現在は、二ノ丸、屋形曲輪、清水曲輪等は鉄道、幹線道路、県庁、民家、に占有され本丸を中心とした5.5haが当時の姿を偲ばせている。また、現存する石垣の大部分は、築城当時の穴太（あろう）積みで、本丸周辺の約80%にそれを見ることが出来る。

今回の調査は孕みの大きい1・2地点石垣解体に伴い影響の出る場所と想定できる稲荷曲輪、天守曲輪、人質曲輪、人質曲輪石垣下斜面、本丸櫓付近、堀について行った。稲荷曲輪では、柳沢文庫絵図（1705）にみられる稲荷神社の社殿跡、方形井戸状遺構が地山面を削平し造成された平坦面より検出され、その東側からは庭園状遺構が確認された。遺物は、稲荷神社の社殿跡付近からは、奉納品と考えられる陶器製狐と瓦類が、庭園状遺構を中心として広範囲にわたり多量の瓦類が出土した。また、稲荷門石段も約一間半の幅で2段ほど検出された。天守曲輪では、飯田蛇笏碑前より比較的新しい時代の石段を検出し、更に天守台石垣は礫と粘質土を非常に強く突き固めた盛り土の上に積み出されていることを確認した。また、人質曲輪は、廃城後埋め立てられスロープとなっており、調査の結果、地表面が一面、瓦層が3層あることが確認され、上層からは比較的新しい瓦が、中層では軒平瓦の他、浅野家の家紋である「違い鷹の羽」を付した軒丸瓦が、下層においては中層同様の瓦の他、金箔瓦（鯨、五三の桐鬼瓦等）が約60点検出された。また、西側奥より本丸櫓石垣の根石から中段部分が、天守台石垣の角石を覆い隠すように構築されており、これによって、天守台石垣が完成した後、本石垣が構築されたことが判明した。人質曲輪石垣下斜面では、樹木を避けるようにトレンチを5箇所入れ、結果、人質曲輪と同様に多量の瓦類に交じり「違い鷹の羽」を付した軒丸瓦のほか、雷神を模したと思われる鬼瓦や鯨等の金箔瓦類が約40点出土した。本丸櫓部分の調査では、攪乱、削平がひどく、根石、礎石等の痕跡は一切確認できなかった。堀は、遊亀橋より東側の、安政の地震

で根石が滑り石垣が横たわっている部分及び、堀底の一部が調査された。遺物は、若干の瓦類の他、江戸末期から現代の陶磁器類が多数、出土した。

今回の調査で多量の金箔瓦が出土したことは、穴太積み高石垣の存在と合わせて、豊臣期の重要な城の一つであったことが伺える。



1・2が石垣修築箇所



瓦出土状況



鉢（頭部破片）



木丸東石垣検出状況



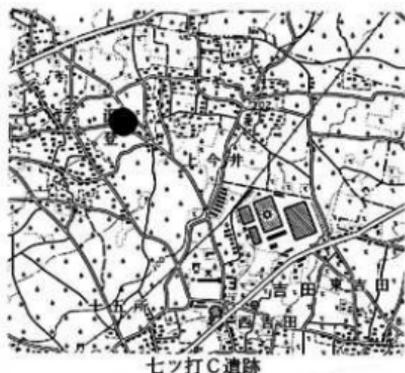
人質曲輪地形面検出状況



人質曲輪調査風景

## 6. <sup>ななつうち</sup>セツ打C遺跡

所在地 中巨摩郡新形町沢登セツ打374-1他  
事業名 一般国道52号(甲西バイパス)  
建設に伴う事前調査  
調査期間 1990年11月5日～1991年1月31日  
調査面積 4,000㎡  
担当者 米田明訓、高野玄明



セツ打C遺跡は御勅使川が形成する広大な扇状地の中央よりやや南側、標高309～310mのほぼ平坦な土地に位置する。遺跡周辺の土地は御勅使川の氾濫によって運ばれた砂礫が幾重にも堆積して形成されている。そのため古来より水田は発達せず、戦前は桑畑、現在ではモモ、スモモ、サクランボ、カリン等の果樹栽培が多く営まれている。

遺跡は地表には土器等の散布は全く見られない。遺跡発見の経緯は、平成元年度に実施された試掘調査によるもので、溝状の遺構が一基発見されて、覆土中から中世の灯明皿の破片が一片出土した。

発掘調査は試掘調査の成果を受けて、地表から150cm前後の深さまで重機の使用により土を取り除いた。試掘終了時に遺構にビニールシートを被せてあったため、溝状遺構はすぐに見えできた。しかし調査区域全域を遺構確認面まで下げてみたが、他の遺構を発見することはできなかった。

溝状遺構は発掘区域の中央のやや北よりから始まり、発掘区域東隅で調査区域外に延びてしまっている。遺構の規模は、全長約60m、幅は1m前後で、2箇所ではほぼ直角に屈曲してクランク状の形状を示している。溝の深さは北から南へいくにしたがって徐々に深くなる傾向を示し、両端のレベル差は約90cmを測る。特徴的なのはその構造であり、浅い溝と深い溝の2条の溝から成っている点である。両者はセクションの観察から見ても同時に埋没しているようであり、掘られた時期の差は不明であるが、ほぼ同時に存在していたものと考えられる。覆土は硬くしまった砂礫層であり、壁・底面と覆土の識別が困難な箇所も多く存在したため、数多くのトレンチをいれざるを得なかった、今回の調査で溝から出土した遺物は黄瀬戸の片口部分の破片と灰釉陶器の底部破片が2片のみでありそれぞれ江戸時代および中世のものとして推測される。なお、遺跡南東隅において現地表面からの溝条遺構のセクションを確認できたが、厚さ約30cmの表土(耕作土)の直下から溝が掘り込まれていることが判明した。

この溝状遺構の機能については類例がなく不明であるが、現在の畑の区画線とほぼ一致して掘られていることが注目される。



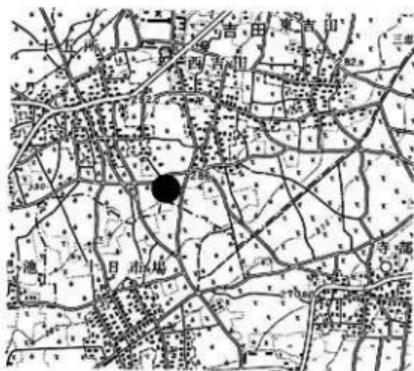
セツ打遺跡溝状遺構（北方から）



セツ打遺跡溝状遺構埋没状況

## 7. 村前東A遺跡

所在地 中巨摩郡檜形町十五所297地  
 事業名 一般国道52号(甲西バイパス)  
 建設に伴う畑地灌漑用パイプ  
 移設工事  
 調査期間 1990年10月22日～1991年2月15日  
 調査面積 1,600㎡  
 担当者 中山誠二・丸山哲也



村前東遺跡位置図

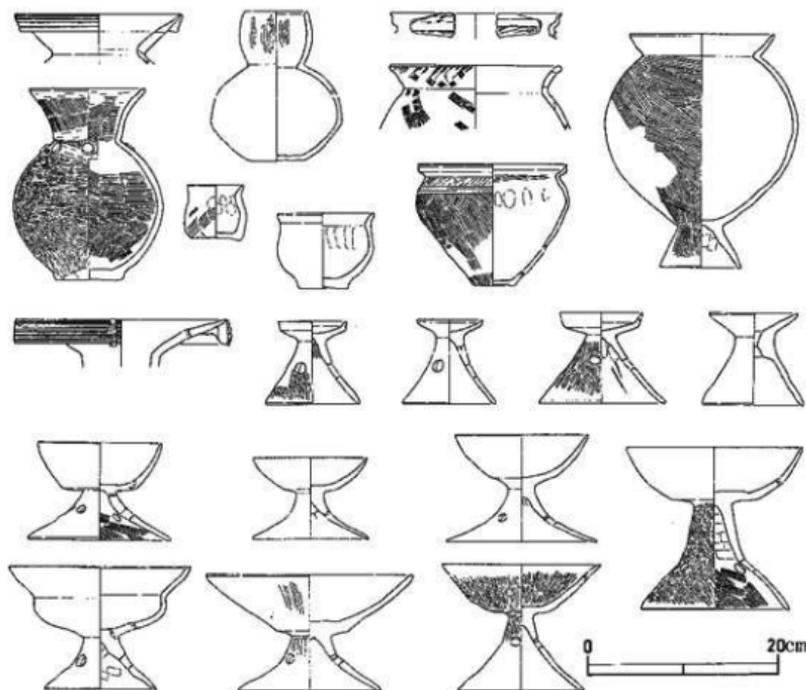
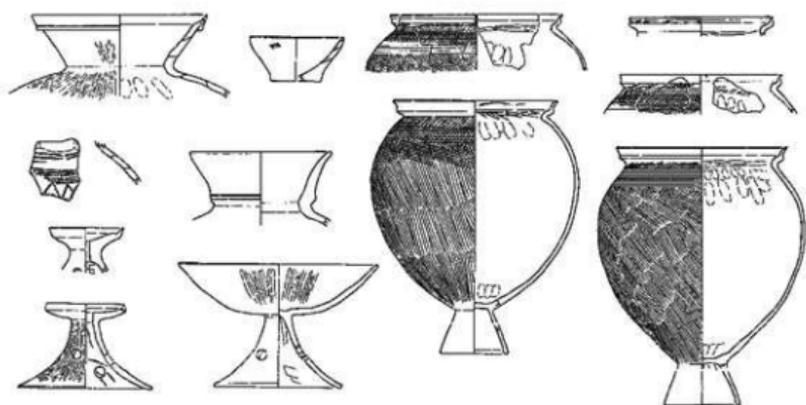
甲府盆地西部の御勅使川扇状地扇端部に位置し、新居道下遺跡の北500mの付近に所在する。標高は280m前後である。この周辺では地表面に御勅使川の氾濫で運ばれた土石流が厚く堆積し、平安時代の遺構確認面まで地表から1m70cm、弥生時代後期末から古墳時代前期の確認面まで3mを測る。調査区は現在使用されている畑地灌漑用幹線パイプと道路によって途切れるため、便宜上A～E地区の5地区の調査地区名を付した。

A～C地区では平安期の遺物包含層は認められず、弥生時代後期末から古墳時代前期の包含層が確認されている。A地区では該期の竪穴住居址1軒、ピット1基が検出された。B地区では遺構は検出されなかったが、遺物の集中地区が確認されている。

B地区の出土遺物の中には、壺、壺、ヒサゴ壺、高坏、器台等がある。壺は基本的には台付壺で、口縁部の形態から有刻口縁、単純口縁、S字状口縁などの台付壺に大別される。S字壺は、口縁部に刻みをもつ赤塚分類A類に対比されるものがある。また、B地区で出土した高坏にはいくつかの形態が存在するが、有稜高坏や脚部がやや内湾する高坏などを持つ点で時期決定の拠り所となる。器台は、口縁部に凹線文と棒状添付文をもつ大型器台の一部や小型の鼓形器台等を含む。これらの土器の特徴は、やや前後関係があるものの概ね東海西部地域の欠山式期に比定される内容を持つもので、県内でもきわめて類例が少ない。甲府盆地ではこれに続く古墳時代初頭の土器の中に東海地方等西部の影響が強く認められており、それらの土器動態との関連で今後注目される。

D地区では、平安時代の竪穴住居址3基、掘立柱建物址の柱穴を含むピット70基余り、竪穴遺構1基、溝状遺構2本、中・近世の竪穴状遺構6基、溝状遺構1本が検出された。

平安時代の住居である1号住居址は、火災住居と考えられ、床面上部に炭化材が堆積する。また、ピット25、29、38、43は、2mほどの間隔で一列に配列されており、掘立柱建物址の一部と推定される。ピットの掘り方は一辺約70cm程の方形プランを呈し、深さは30～40cmを測る。平安期の遺構は、出土遺物から10世紀代のものが大半を占め、土師器、須恵器、灰釉陶器などが出土している。



村前東A遺跡出土土器（弥生時代後期末葉～古墳時代前期）  
 上段A地区  
 下段B地区

## 8. 新居道下遺跡

あらためちした

- 所在地 中巨摩郡若草町十日市場字新居道下1746地
- 事業名 一般国道52号（甲西バイパス）建設に伴う畑地灌漑用パイプ移設工事
- 調査期間 1990年10月22日～1991年2月14日
- 調査面積 100㎡
- 担当者 中山誠二・丸山哲也



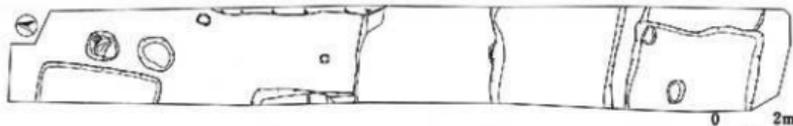
新居道下遺跡位置図

甲府盆地西部の御勅使川扇状地扇端部の南側に位置し、標高270mを測る。本遺跡はその扇端部に形成された北西から南東方向へのびる微高地上に展開する。周辺の試掘調査では遺跡北側では御勅使川の氾濫で運ばれた礫層が厚く堆積し、南側では低湿地となり泥炭層が堆積する。

今回の調査地点は甲西バイパス工事杭No.257 (R) 前後に位置し、東西4m、南北25m程の地域である。調査の結果、平安時代の竪穴住居址6軒、ピット4基、溝状遺構1本が検出された。住居址の規模は、調査幅が狭いため全体が把握できないが、一辺4m～5m程の方形プランを呈すると考えられる。壁の立ち上がりはほぼ垂直で、深いものでは確認面から90cmに達する。カマドが確認されたのは5号住居址のみであるが、6号住居址北側でも床面に焼土面が確認されている。遺構の時期は、出土遺物から平安時代前期の9～10世紀頃のもの判断される。住居址の切り合い関係から、周辺にも濃密に遺構が展開し、集落を形成するものと推定される。



新居道下全体図



新居道下遺跡全体図

## 9. 観音溝遺跡

所在地 東八代郡石和町小石和字観音溝  
事業名 県道石和・石橋線建設事業  
調査期間 1990年10月4日～11月15日  
調査面積 300㎡  
担当者 小野正文、平山 優



観音溝遺跡位置図

本調査は、石和町小石和字観音溝地内における、県道石和・石橋線建設に先立って行われた調査である。本遺跡は、南に天川を控え、北に上手川があり、河川に挟まれた標高266m

の微高地に位置している。本遺跡の周辺には、まず上手川を挟んで隣接する向田集落には、上堀遺跡、観音溝遺跡と同じ微高地上に塚之越遺跡・向田遺跡、天川を挟んだ向かいには身洗沢遺跡など、いずれも弥生時代を中心とする遺跡が存在している。そしてこれらの遺跡は、いずれも微高地上に存在しており、本調査地も類似の地形であるため遺跡の存在が予想されたため、試掘調査を行うことになった。

調査はまず、県道建設予定地に天川から向田集落に向かって、5m間隔で3m四方の試掘坑を七ヶ所設定し、層位および遺構・遺物の確認作業を行った。その結果、微高地から、弥生土器を伴う住居址・溝状落ち込みが確認され、本調査に入った。

発掘範囲は、限定された県道建設地内の、幅約5m・長さ約26mと決定した。発掘の結果、弥生後期の住居址2軒と、用水路跡と見られる溝状遺構4ヶ所を検出した。

1号住居址は小判形を呈し、規模は南北4.7m、東西4.8mを測る。住居址の中央部やや北よりの床面に、炉址とおぼしき焼土を確認した。柱穴も4ヶ所確認され、住居址の南西隅に弥生土器片を伴う土坑を確認した。その規模は、南北6.7cm・東西5.6cmで、貯蔵穴であると推定される。なお住居址中央から西側にかけては、道路のコンクリート製側壁のために削られており、壁面の確認ができなかった。なおこの住居址は、焼失住居の可能性が高い。

2号住居址は、大部分が調査範囲外であるため、 $\frac{1}{3}$ ほどしか確認できなかった。確認された部分のみのデータは、全長4.27メートル・最大幅0.91mを測る。またこの住居址は、その外側に溝状遺構をめぐらせている。この形態の住居址は、本県では類例がないもので、注目される。両住居址ともに、弥生土器を伴出し、いずれも弥生後期に位置づけられる。

このほか、天川と平行して遺跡と東西に貫流する溝状遺構が、3条認められた。いずれも伴出の土器から、住居址と同時期のものである。

以上のように、本遺跡は隣接する身洗沢遺跡とならんで、山梨県では調査が少ない、盆地低部の弥生遺跡の解明のための資料のひとつとなる。

ひがしやまみなみ きた  
10. 東山南・北遺跡

所在地 東八代郡中道町下向山字東山  
事業名 甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園  
整備  
調査期間 1990年5月10日～10月26日  
調査面積 5,800㎡  
担当者 末木 健、早川典孝



東山南(1)・北(2)遺跡位置図

### 遺跡の概要

本遺跡は曾根丘陵のほぼ中央に位置する東山の頂上部と、一段北側に下がったテラス上に立地しており、前者を東山南遺跡、後者を東山北遺跡と呼称している。東山南遺跡は昨年より調査を始め、2年間で弥生時代後期の住居址1軒と古墳時代中頃の低墳丘墳2基が発見された。東山北遺跡は本年度より調査を始め、弥生時代の後期集落の一部と周溝遺構、土壌群などが発見されている。

### 東山南遺跡

本遺跡は遺跡台帳にその所在が記載されていなかったもので、公園造成に先立って試掘調査を実施したところ、僅かな墳丘と周溝部の落ち込みが検出された。初年度は全体が買収されていなかったことから、1号墳・2号墳ともに完掘できなかったが、本年度は夏の耕作が終了してから、全面調査に着手することができた。

1号墳と2号墳は、東山の頂上平坦部から東に伸びる尾根先端部に、ほぼ東西に並んで築造されており、1号墳は円墳で、東西直径21.5m、南北直径22.5m、墳丘高は南裾との比高0.3m、北裾との比高1.6mである。周溝が円形に廻り、3カ所にブリッジがある。溝の幅は2.5～3m、深さ50～60cmで、底は全般的に平らである。ブリッジは均等に配置されているのではなく、墳丘中央を東西から北東方向に直線で結ぶ方向に2カ所と、これと直交する北西方向に1カ所がある。主体部は発見されなかった。遺物は周溝内部から把手付腕と土師器の埴、甕、有孔砥石などが出土している。

2号墳は直径26m程の円墳である。1号墳の周溝の2.7m東に2号墳の周溝がある。台地最先端部に位置し、規模や斜面での築造方法の困難性などを勘案すると、1号墳に先行して作られた可能性が高い。墳丘の高さは、周溝外側と墳頂部の比高で表すと、南からは50cm、北で2.5mである。周溝はほぼ円形に廻るが、ブリッジが5カ所から検出された。ブリッジの位置はほぼ円を5等分する位置にあり、2号墳のブリッジと1カ所が対応する。溝の幅は3.1～3.7mで、深さは場所によって異なるが50～98cm。溝の底はほぼ平らである。遺物は周溝底部より破片となって出土しているが出土している周溝が特定されており、墳頂より東の溝と西の溝に別れている。東側からは埴型甕が出土し、西側からは須恵器甕及び高環、甕などが出土している。

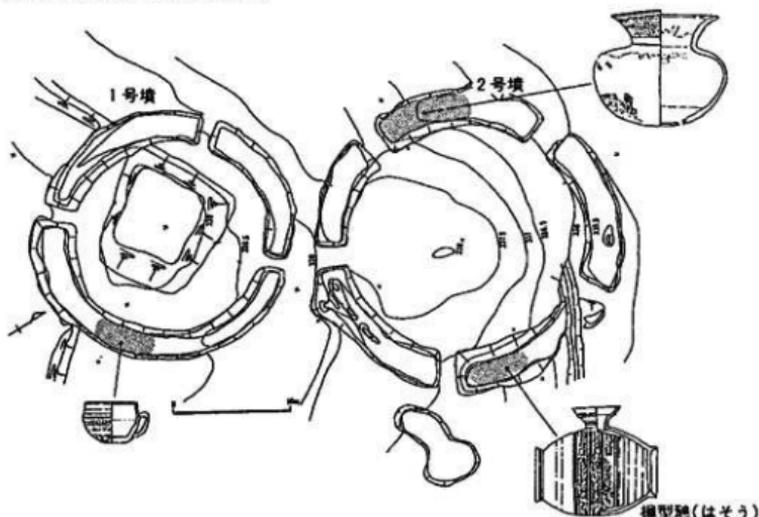
また、墳丘東側に瓢箪形の竪穴遺構があり、この中から若干の焼土と土器破片が出土している。この遺構が古墳築造と拘わりあいがあるとするれば、墓前祭に伴う施設であろうか。遺物は壺か壺の破片であるが、破片となっているため、復元や実測が不可能であった。

#### 東山北遺跡

大丸山古墳の東側に広がる平坦地で、公園整備事業のうち道路や植物園の計画地となっている。道路は平坦面の西側縁を通過する予定のため、トレンチによって試掘調査を行ったが、遺構は検出できなかった。植物園となる平坦面の調査は、西側の一部を表土除去して遺構確認を行ったところ、縁に並んで弥生時代後期の住居址4軒と、土器焼の長円形皿状ピット1基、周溝遺構1基、このほか土壌・ピットなどを検出した。このほかにも住居址や周溝遺構などのプランが確認されているが、これらの調査は次年度の予定である。

1号住居址は5m×4mの隅丸方形を呈し、4本柱穴で地床炉の竪穴住居である。斜面下側の一部は溝によって削り取られている。2号住居址は小型の住居で3m×3mの隅丸方形で地床炉をもつ。3号住居址はプランが明確ではなく、住居でない可能性がある。4号住居址は長軸6.3m×短軸4.5mの楕円形で4本柱穴、貯蔵穴、地床炉をもつ。5号住居址は1～4住居址より30mほど北側に単独で発見された。4×3.5mの台形プランの住居で、住居北側に地床炉があるが柱穴は不揃いである。

4号住居址の東側に、等高線と直交する方向に長軸をもつ土器焼成遺構が発見されている。幅約1.5m、長さ4mの長円形皿状ピットで、長軸方向の中央に浅い溝が掘られている。床面は焼けており、焼土・炭が多く含まれている。覆土中の土器は破片となっているが、焼むらや生焼け状態の土器が多く認められた。



東山南遺跡 1・2号墳

## 11. 長田口遺跡

所在地 中巨摩郡榑形町平岡字長田口  
 事業名 富士川西部広域農道建設工事  
 調査期間 1990年9月17日～12月28日  
 調査面積 1,200㎡  
 担当者 浅利 司、保坂和博



長田口遺跡位置図

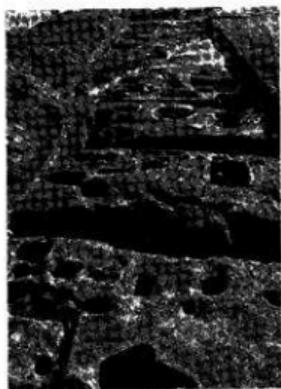
長田口遺跡は、富士川西部広域農道建設にともない、1988年から発掘調査を進めている遺跡である。甲府盆地西部の市ノ瀬台地上、標高約400mに位置する。この市ノ瀬台地は、標高2000mにおよぶ榑形山の東麓に広がり、御勅使川や滝沢川をつくる沖積地との比高差は約90mほどである。台地上には、各時代にわたる非常に多くの遺跡が存在していることが知られており、六科丘遺跡などがすでに発掘調査されている。

本年度の調査区は、昨年度の調査区の北にあたる部分で、幅12m長さ200mを調査する予定であったが、中間部の遺構が非常に濃密であったため、一部の調査は来年度に持越となった。

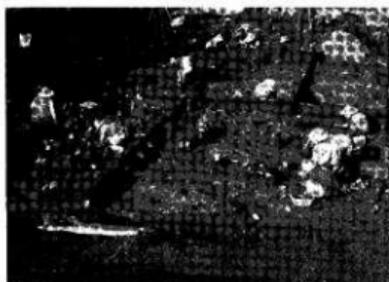
今回確認された遺構は、住居址9基、掘立柱建物址、土坑59基、溝状遺構14基等であった。遺物は昨年引き続き、弥生時代後期後半のものが主体で、これにわずかな縄文時代のものと中世のものが加わる。住居址はすべて弥生時代後期のものと考えられる。9基のうち3基は長径が9mを超える小判形の大型住居址で、ともに焼土が多量に検出された。この内、発掘区中央部の24号住居址には床一面に土器が散乱しており、当期の良好な一括資料として注目される。その他の住居址は、一部を除いて攪乱が著しく、床面がしっかり残っていても、覆土が少ないものが多かった。また、ほとんどの住居址の床下には、壁からやや入った内側に幅50cm程の浅い掘込みが回っており、当期に限られたものかどうか等、この系譜を辿る必要がある。

発掘区の北側には、中世の遺構が集中して確認された。断面がフラスコ状になる土坑は、入口は直径約70cm、深さは深いものでは2mにも達し、床の直径は2mほどとなるもので、15基ほど検出された。中世の遺物が出土している。類例を検索中であるが、用途は特定できない。床面からムシロ状の炭化物が確認されたものもある。掘立柱建物址は、現在のところ1棟の確認であるが、来年度の調査で隣接部を発掘するため、これからの検討でさらに増加する可能性がある。

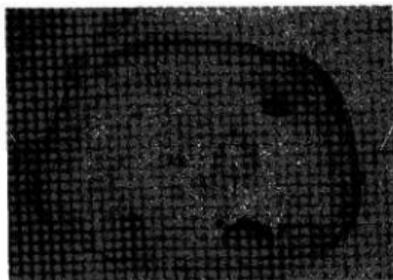
溝状遺構の内、V字状を呈して砂礫の含まれているものからは、古墳時代初等の土器を中心に縄文土器などが多数発見されている。緑の角がとれているものも多く、流れこんだものと考えてよいであろう。所属の時期を決定するのが難しい。



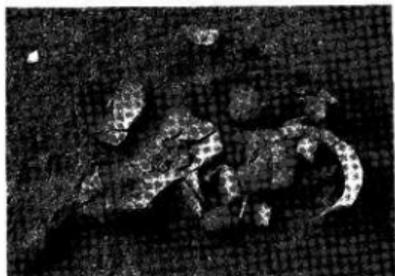
発掘区北側



発掘風景



21号住居址



24号住居址遺物出土状況



83号土城

## 12. 地耕免遺跡

所在地 東八代郡御坂町字地耕免1730他  
事業名 県立教育情報センター建設事業  
調査期間 1990年5月14日～9月21日  
調査面積 4600㎡  
担当者 小野正文、平山 優、小林広和



本調査は、御坂町字地耕免地内における県立教育情報センター建設に先立って行われた調査である。

本遺跡は、笛吹川左岸・金川左岸の氾濫原に位置し、遺跡のすぐ東側を鎌倉街道が走り、南側は国衙址が控え、条里制地割が顕著に認められる場所に存在している。本遺跡は1987年度に、隣接する畑地に教育センター駐車場を建設するのに先立って、試掘調査が行われた。その対象は10,000㎡で、ここに1.5×2mの試掘坑を23ヶ所設定し、遺構・遺物等の確認を行った。その結果、すべての試掘坑から8世紀頃（奈良時代）の土師器・須恵器が多数検出され、住居址および集石遺構の存在が確認された。

今回の調査は、この試掘調査が行われた教育センター駐車場南側の、教育情報センター建設予定地で行われた。その規模は、約4600㎡である。

調査の結果、平安時代住居址3軒・獨立遺構4基・井戸址・溝址3状・土坑1基・その他柱穴数基を検出した。また出土遺物は、弥生・古墳・奈良末～平安初期までの広い範囲にわたる土器が検出されたが、中心は平安初期のものである。

注目されるのは、遺跡の $\frac{1}{3}$ を東から西に向かってやや蛇行しつつ貫流する2条の溝である。このうち、遺跡の中央部を流れる全長約65m・幅約0.15mの1号溝は、30点を超える斎串が馬の骨・歯のモモ・クミを伴って出土し、しかもそれらが溝の中央部で幅が最も広がる部分に集中してみられる。斎串は雨乞いなどの儀礼に使用されるものであり、この遺跡周辺は、近世の史料によると雨が少なく、水論の多かった所であるので、この1号溝の遺物集中区は、雨乞いなどの儀礼を行った場所に当たるのではないかと推察される。なお馬は、その歯などから数頭の馬が殺されて、『続日本紀』に見られるように、スケープゴードにされたものと考えられ。しかし、ここで注意しなければならないのは、殺馬儀礼を主催したのが誰であったかということであり、これは本遺跡の評価にもかかわる重大な問題である。馬の価格は、平安中期の甲斐国においても「上馬四百束・中馬三百五十束・下馬三百束」であり（『延喜式』）、相当高価であって、とても個々の農民単位による儀礼とは考えられない。ほぼ同時期の成立である『日本堂異記』には、この殺牛儀礼を「富豪」が司り、周辺の農民がこれに参集するという形式をとっていたことが窺われる。いわゆる「殷富富豪之輩」とよばれる階層である。とすれば本遺跡の祭祀にも、このような階層がかかわっていた可能性が高いが、この点は今後の重要

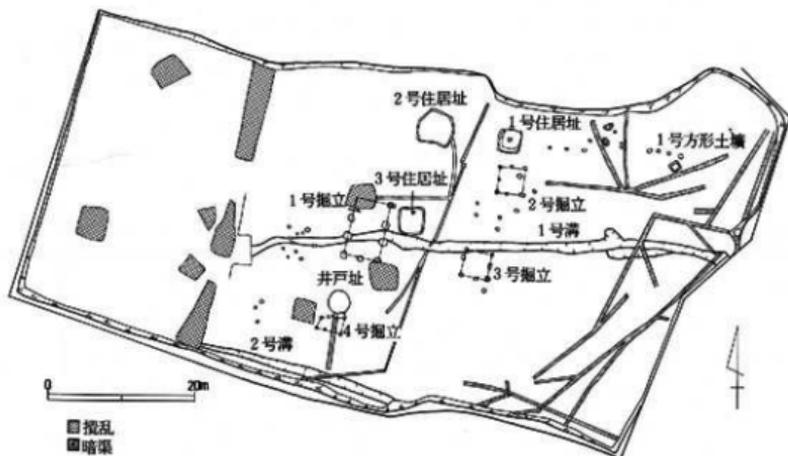
な検討課題である。遺物にはこのほか木製農具・曲物低部などがある。

次に遺跡の南端に検出された、全長約25.7m・幅1.3mの2号溝は、土師器環のみが目立って検出され、畜串はわずかに1点、植物種子もごく少なく、1号溝とは性格が違うものとも考えられる。しかもこの溝は、途中で現在の用水堰の真下に入り込んでおり、地籍図をみるとこの堰が、条里に沿った堰であることが確認されるので、条里堰であると考えられる。最後の3号溝は、途中を1号溝で切られているが、全長約23.9m・幅約0.5mを測る。弥生後期の土器が出土しており、この遺構群のなかで最も古いものと考えられる。

次に住居址であるが、1号住居址は隅丸方形を呈し、長さ3.3m×3.17mを測る。柱穴・貯蔵穴などの確認は出来なかったが、掘り方の中央部から土坑(用途不明)が検出された。時期は出土した土師器から、奈良末～平安初期のものと思われる。

次の2号住居址は、土層の攪乱でプランその他がはっきりせず、形態も明らかにしえなかったが、土師器・青色ガラス玉を検出した。3号住居址は、ほぼ方形を呈し3.75m×3.07mを測る。すでに床面は失われており、わずかにプランとカマドとおぼしき掘り込みが確認された。

このほか、1～4号掘立遺構はいずれも、1号溝が何らかの理由で埋まった後に立てられたものと推察され、いずれも柱根・柱石・木礎が検出された。なおその用途は今のところ確定できない。また井戸址も確認されているが、埋没土からこの遺構群よりも新しいものである。本遺跡は国衙とのかかわりが推察されるほか、奈良末～平安初期の変動を追う貴重な資料として、今後の分析が待たれるものである。



地籍免遺跡全体図

### ししのまえ 13. 獅子之前遺跡

所在地 塩山市千野字獅子之前531-1他  
事業名 塩山バイパス建設に伴う事前調査  
調査期間 1990年6月18日～7月31日  
調査面積 1,100㎡  
担当者 米田明訓、高野玄明



獅子之前遺跡位置図

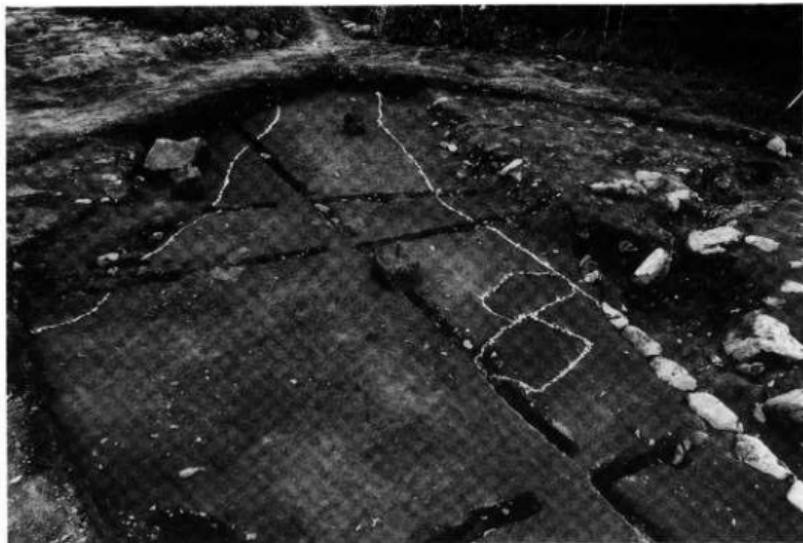
大菩薩嶺の東麓に源を発する重川は、塩山市の市街地北端、下栗生野で北の高芝山を源とする竹森川と合流している。その合流地点から下流へ500m、重川右岸の段丘上に獅子之前遺跡は立地する。標高はおおよそ450m前後である。

この重川の流域は花崗岩地帯で、重川と竹森川の相次ぐ氾濫により段丘上にも花崗岩の風化した砂が堆積している。現在遺跡周辺は宅地化が進んでいるが果樹栽培が盛んである。それ以前は水田地帯であったというから、花崗岩対策として近世以降大規模な開墾や土の搬入が行われたものと考えられる。遺跡で検出される遺構は花崗岩の砂層に掘り込まれているが、発掘区域北側では住宅が多く、その基礎が花崗岩砂層より深く打ち込まれており遺構の残存状態は良くなかった。

獅子之前遺跡は現在のいわゆる青梅街道（国道411号）にほぼ沿って存在している。この国道は明治時代以降に改良を繰り返されてきた道で、江戸時代以前の旧青梅街道は現在とはやや異なったルートであったことが明らかになっている。今回の調査ではこの旧青梅街道の一部と考えられる三叉路状の道路遺構が発見された。幅3～4m、長さ12～15mの範囲で硬く踏み固められた面が検出され、一部に縁石あるいは水路跡と思われる石列も見られる。今回発見されたものは、田富町の内藤家所蔵の古絵図から推測すると、明治時代以前の重川にかかる千野橋のすぐ西側に位置するものと思われる。踏み固められた土の中からは江戸時代後期～明治時代初頭のものと考えられる土製品が出土している。

ほかに塩山市周辺では稀な弥生時代中期の土器片が土坑から纏って出土しており注目される。また、遺構に伴ったものではないが、水晶原石が多量に発見されている。昨年度の調査では水晶製の石器が原石とともに出土しているが、今年度の出土品については、遺跡のすぐ上流に水晶の産出地があるうえに竹森川氾濫が幾度とあったことから考えると、人為的に搬入されたものであると積極的に主張できるかどうか疑問である。

獅子之前遺跡周辺には今なお旧青梅街道等の古道が埋蔵されていることは確実であろう。今後それらの道が新たに発掘される機会があれば、江戸時代以前の古道の実態が更に明らかにされていくであろう。



獅子之前遺跡道路遺構（南西方向から）



獅子之前遺跡道路遺構石列（北東方向から）

## 14. 八ヶ岳東南麓ほか遺跡分布調査

所在地 ①北巨摩郡高根町、大泉村、長坂町

②北巨摩郡大泉村

③甲府市塩部

事業名 ①八ヶ岳広域農道建設計画

②まきば公園建設計画

③県道塩部町閉国橋線建設計画

調査期間 ①1990年5月21日～5月31日

②1990年6月4日～6月8日

③1990年8月20日～8月24日

担当者 米田明訓、高野玄明

調査方法については、個々の調査予定地内において、それぞれの地形等の状況を勘察して試掘坑を設定し人力あるいは重機により掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。

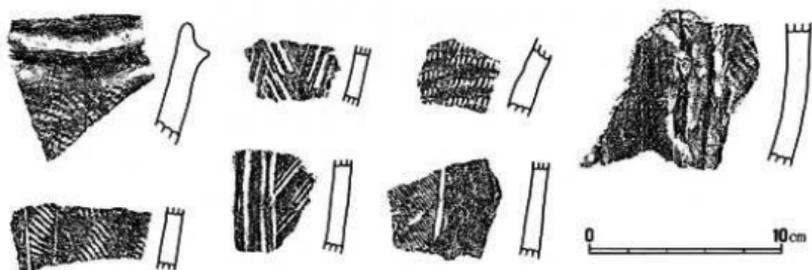
①A～Eの5つの地点について試掘を実施した。現況はA地点の一部が水田である他はすべて山林である。調査の結果、A地点の一部に縄文時代中期後半の遺跡を発見し「西の入遺跡」（北巨摩郡高根町堤字西の入64外）と命名した。これについては事業実施前に本調査の必要がある。またE地点の1箇所の試掘坑から縄文時代後期のものと思われる土器片が出土したが、出土地点が谷の部分であり北側の尾根からの流れ込みと考えられた。その他については遺構・遺物とも全く発見できなかった。

②現況は山林部分と牧場部分があり、牧場部分については閉墾時の覆乱が著しくローム層まで掘り返されている状態であった。山林部分も地層は安定しているものの地表から20cm～70cmほどでハードローム層に到達し、それぞれ遺構・遺物は全く発見されなかった。

③住宅地の間の既に用地買収が終了し建物が撤去されている土地についてのみ試掘調査を実施できた。重機により地表から250cmほどまで掘り下げたが、出水の激しい箇所、砂利が厚く堆積している箇所が多かった。一部に良質な黒色土層の堆積が見られたが、いずれの試掘坑からも遺構・遺物は全く発見されなかった。なお、甲府工業高校の西側については過去付近で古墳時代初頭の土器が出土している経緯があり、今後建物が撤去された後に試掘を実施する必要がある。



八ヶ岳広域農道遺跡確認調査位置図



八ヶ岳広域農道A地点出土土器



まさば公園位置図



塩部町開国橋線位置図

## 15. 甲西バイパス地内試掘調査

所在地 中巨摩郡榑形町十五所～甲西町  
田島

事業名 一般国道52号建設

調査期間 1990年6月19日～10月12日

調査面積 125,000㎡

担当者 中山誠二、丸山哲也

甲府盆地西縁を南北に走る国道52号線とほぼ平行に、甲西バイパス建設予定地がある。本試掘調査は、平成元年度からの三ヶ年計画で実施され本年は二年目にあたる。なお、本年の試掘調査は、中巨摩郡榑形町十五所から甲西町田島までの約3kmとインター予定地の買収完了地域である。

トレンチの設定は、重機と人力により約25m間隔に2×10mの大きさで145ヶ所設定した。この結果、御勅使川・滝沢川・狐川の氾濫の影響は大きいものの安定土層の残る地域について次のような遺跡の存在が確認できたことは、大きな成果である。

### (村前東A遺跡)

地表下1.5～2mの黄色砂層より平安時代の遺構を確認。住居址・小堅穴群に伴って環・甕が出土した。さらに、地表下2.5～3mには、古墳時代の遺構を確認。住居址に伴って甕・高坏・器台・埴が出土した。

### (新居道下遺跡)

地表下1mの黄色細砂層より平安時代の遺構を確認。住居址に伴って環・甕が出土した。さらに、地表下2.5mには、古墳時代の土器の包含層が検出されている。

### (二本柳遺跡)

地表下0.5mの砂質礫層より中世のものと考えられる墓坑を確認、木柩・北宋銭・人骨・物忌札が出土した。さらに、地表下1.5mの黒色粘土層には畦畔と考えられる規則的な高まりが確認でき、杭列を確認した。それに伴って曲げ物やかわらけの破片が出土している。

### (向河原遺跡)

地表下1.6mの黒色粘土層より畦畔と考えられる高まりを検出、それに伴い東西方向に杭列が認められた。この地域には、水田面と考えられる複数の土層が存在している。

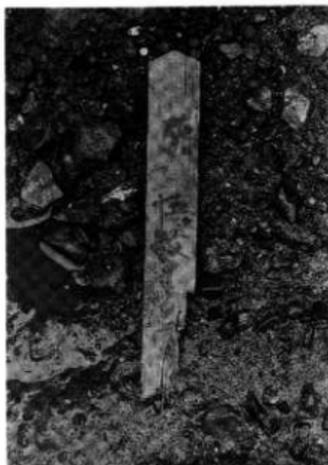
### (油田遺跡)

地表下1.6mより畦畔と考えられる高まりを検出、それに伴い畜串・須恵器片が出土した。



甲西バイパス建設予定路線位置図

A. 村前東A遺跡 B. 新居道下遺跡 C. 二本柳遺跡  
D. 向河原遺跡 E. 油田遺跡



二本柳遺跡出土物忌札



向河原遺跡水田及び杭列

## 16. 東山梨合同庁舎建設予定地遺跡試掘調査

所在地 山梨市下井尻・塩山市上塩後  
 事業名 東山梨合同庁舎建設事業  
 調査期間 1990年5月21日～5月31日  
 調査面積 18,000㎡  
 担当者 新津 健、平山 優



本調査は、山梨市下井尻・塩山市上塩後にまたがる地内における東山梨合同庁舎建設に先立って行われた遺跡確認調査である。

調査地は、笛吹川左岸の標高 391m の北から南にむかって緩やかに傾斜する微高地に位置し、調査地のちょうど中央には山梨市と塩山市の境を示す境塚が貫流する。

調査地の周辺、特に北側には「千手院前遺跡」の存在が知られており、その経緯から今回の遺跡確認調査が実施されるに至った。今回の調査は、約120m×約180m程の範囲内に幅1.8m・長さ28～72mの調査坑を19カ所、2m四方の調査坑を8カ所、計27カ所を約10m～18m間隔で設定し、遺跡・遺物の有無の確認を行った。

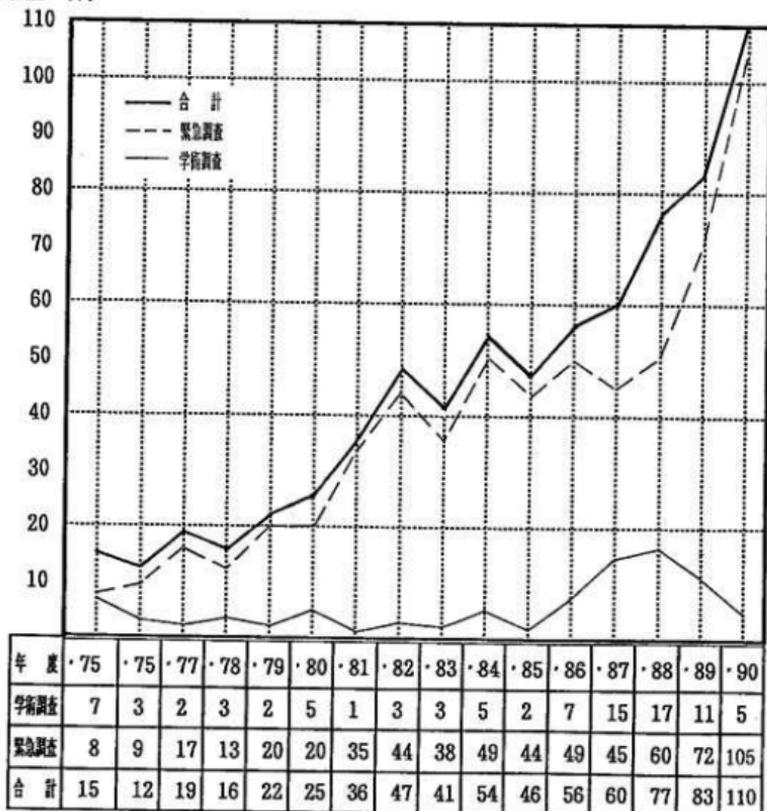
調査の結果、調査地内を北から南に蛇行する川跡が二本確認され、それに伴って縄文前期の土器片・石器、古墳時代～平安時代にかけての土師器片、近世陶磁器片などが出土した。しかし、住居址などを含めた遺跡などの確認はできず、これらの遺物類はいずれも川の影響によるものであろうと推察され、調査区域内には遺跡は存在しないものと結論されるにいった。

### Ⅲ 県内の概況

下のグラフに示したように、今年度は県内で110件（3月末日現在）の調査が行われている。中央自動車道建設にともなう調査が本格化した1979年度以降、県内の発掘調査は増加の一途を辿り、ついに本年度は100件を超えるに至った（巻末発掘調査一覧表参照）。しかも今年度の増加率は特に急である。これを原因別にみると、宅地造成・住宅建設26、道路建設19、圃場整

山梨県埋蔵文化財発掘調査件数推移

(単位：件)



備事業15、工場・工業団地造成11、公園造成・整備7、ゴルフ場造成5、学術調査5などとなっている。昨年までとは異なり、今年度は宅地開発に関連するものが最も多くなった。しかもこれは年々増加する傾向にある。工業団地等の造成も依然として盛んである。さらにこれらの開発にともない道路建設も多い。また、宅地造成や圃場整備事業、ゴルフ場造成など、近年の開発は大規模なものが多く、中には丘陵を丸ごと造成してしまうものさえある。1件あたりの調査面積が大きくなっていることも見逃せない事実である。

一方、郡市別に見てみると、北巨摩郡・韮崎市31件、中巨摩郡10件、南巨摩郡4件、甲府市4件、東八代郡38件、東山梨郡・山梨市・塩山市12件、北都留郡・大月市7件、富士吉田市2件となる。突出して多いのは、北巨摩郡・韮崎市と東八代郡である。両地域で全件数の50%を占めてしまう。北巨摩地方の半数は、圃場整備事業にかかわるものであるが、それを差し引いても他郡市より多くなるのは、八ヶ岳山麓や茅ヶ岳山麓に急増しているリゾート開発の影響がある。同様な傾向は、東京より近い大月市等でもみられる。東八代郡の発掘調査は県内で最も多いが、この地域に特徴的なのは、宅地開発にかかわるものが非常に高い割合を示すことである。もともと遺跡の密度の濃いことに加えて、甲府市のベッドタウンになっていることやリニア新実験線建設予定地になるなどの条件が重なった結果と考えられる。また、これまで調査件数の少なかった中巨摩郡の件数が増えているのは、甲西バイパス（中部横断自動車道）建設に先立つ調査が開始されたためである。このような発掘件数と発掘面積の急増傾向は、当然今後も続くことが予想される。

# 1990年度発掘調査一覽表 No.1

(発掘期による)

番号	遺跡名	所在地	調査主体者	調査目的	発掘	代	面積(㎡)
1	松樹遺跡	山形市東田字松樹589-600	山形市教育委員会	犯地	成	奈良	90.4.29~90.4.27
2	甲斐岡分尼寺跡	東八代郡一宮町堀尾76-1外	一宮町教育委員会	池	成	奈良,平安	90.4.19~90.10.31
3	平尾遺跡	東八代郡一宮町本木503-1外	一宮町教育委員会	池	成	平安	90.4.19~90.6.30
4	塩川遺跡	北日本町藤原町北3507外	山形県教育委員会	ク	成	奈良,平安,中,近世	90.4.29~90.7.31
5	五木形遺跡	甲府市利戸町字五木形387外	(学)山梨学院	ク	成	奈良,平安	90.4.19~90.4.30
6	嶺新遺跡	北日本郡長敷町八田3100番地外	長坂町教育委員会	限	成	奈良,平安,中世,近世	90.5.21~90.10.31
7	熊名墳(長谷古墳跡)	東八代郡飯沼町字熊名長田1291番地外	飯沼町教育委員会	工	成	奈良	90.4.29~90.7.31
8	熊名墳	北日本郡飯沼町台字熊名長田47外	白州町教育委員会	池	成	奈良	90.4.19~90.4.27
9	大飯I遺跡	北日本郡白州町白字大飯町1654外	白州町教育委員会	池	成	奈良	90.4.19~90.4.27
10	在吉遺跡	中日本郡中野町山崎字住吉286番地外	中野町教育委員会	池	成	奈良,平安,中世	90.5.7~90.6.30
11	阿原A遺跡	北日本郡東川内町字阿原1378	東川内村教育委員会	池	成	奈良	90.5.14~90.5.19
12	阿原B遺跡	北日本郡東川内町字阿原1776	東川内村教育委員会	池	成	奈良,平安	90.5.14~90.5.19
13	高部字山平遺跡	東八代郡豊村高部林1418外	豊富村教育委員会	池	成	奈良,平安,古墳	90.5.14~90.12.15
14	尾瀬免遺跡	東八代郡飯沼町字尾瀬免1700外	山形県教育委員会	池	成	奈良,平安,古墳,奈良,平安	90.5.14~90.12.15
15	宮後遺跡	東八代郡中野町下川字栗山307	山形県教育委員会	池	成	奈良	90.5.7~90.11.30
16	宮後遺跡	北日本郡中野町下川字栗山307	山形県教育委員会	池	成	奈良	90.5.14~90.12.25
17	浦田遺跡	北日本郡東川内町浦田183外	東川内村教育委員会	池	成	奈良,平安	90.5.29~90.6.15
18	甲ノ原遺跡	北日本郡東川内町甲ノ原183外	東川内村教育委員会	池	成	奈良,平安	90.5.14~90.5.19
19	小坂遺跡	北日本郡大泉町上見字小坂66	山形県教育委員会	池	成	奈良,平安	90.5.14~90.8.31
20	天神遺跡	東八代郡川井町字天神4254外	川井村教育委員会	池	成	奈良	90.5.14~90.12.25
21	立石遺跡	東八代郡飯沼町小泉561-1	飯沼町教育委員会	池	成	奈良	90.5.24~90.5.31
22	石岡遺跡	北日本郡飯沼町石岡長沢	高根町教育委員会	池	成	奈良,平安	90.5.10~90.5.31
23	寺林遺跡	大月市月形町寺林2748外	大月市教育委員会	池	成	奈良	90.6.1~91.3.30
24	柴草遺跡	大月市大月町柴草上平2650外	大月市教育委員会	池	成	奈良	90.6.19~90.11.30
25	榎林遺跡	大月市大月町榎林2483外	大月市教育委員会	池	成	奈良	90.6.19~90.11.30
26	字遺跡	大月市大月町字遺跡3027外	大月市教育委員会	池	成	奈良	90.6.19~90.11.30
27	平林大平遺跡	南日本郡飯沼町平林下内原1501-1外	南日本郡飯沼町教育委員会	池	成	奈良	90.6.19~90.11.30
28	高谷村ノ楯遺跡	南日本郡飯沼町高谷村下内原1501-2外	南日本郡飯沼町教育委員会	池	成	奈良	90.5.21~90.7.31
29	松本遺跡	山形市東田字松本2303外	高谷村遺跡調査団	土	成	中世	90.6.1~91.3.31
30	清水C遺跡	東八代郡古川町清水200-2外	石和町教育委員会	池	成	奈良	90.5.24~90.6.15
31	蒸かん遺跡	中日本郡飯沼町上内字蒸かん66-1	石和町教育委員会	池	成	奈良,平安,中世	90.6.4~90.6.9
32	一階堂氏館遺跡	東八代郡古川町川字蒸かん1472	石和町教育委員会	池	成	奈良	90.6.4~90.6.30
33	松田遺跡	山形市小坂遺跡2	塩山町教育委員会	池	成	奈良,中世	90.6.15~90.6.22
34	松本堀ノ池遺跡	東八代郡石和町松本200-2	石和町教育委員会	池	成	奈良,平安,中世	90.6.15~90.6.20
35	上北田3遺跡	北日本郡白州町上北田2230-2外	白州町教育委員会	池	成	奈良,平安,中世	90.6.5~90.8.8
36	新尾遺跡	北日本郡飯沼町字新尾1000外	白州町教育委員会	池	成	奈良	90.6.29~90.9.21
37	新尾遺跡2	北日本郡飯沼町字新尾1793外	白州町教育委員会	池	成	奈良,平安,近世	90.6.29~90.10.20

# 1990年度発掘調査一覽表 No. 2

番号	遺跡名	所在地	調査主体者	調査目的	時代	調査期間	面積(m <sup>2</sup> )
38	宮城第3遺跡	北広島郡大森町内出1719外	大森町教育委員会	県営団地整備事業	縄文	90.6.20-90.10.20	15,400
39	持ッ牛北遺跡	北広島郡高砂町川上(新築地)	高砂町教育委員会	県営団地整備事業	縄文・平安	90.6.1-91.3.31	1,000
40	持ッ牛北遺跡	北広島郡高砂町川上(新築地)	高砂町教育委員会	県営団地整備事業	縄文・平安	90.6.1-91.3.30	2,150
41	当り町遺跡	北広島郡高砂町川上(新築地)	高砂町教育委員会	県営団地整備事業	平安	90.6.1-91.3.30	1,423
42	下原呂遺跡	北広島郡高砂町川上(新築地)	高砂町教育委員会	県営団地整備事業	縄文・平安	90.6.1-91.3.30	1,380
43	仁王遺跡	北広島郡高砂町南正字念泉原(旧)	高砂町教育委員会	県営団地整備事業	中世	90.6.1-91.3.30	0
44	新野遺跡	中広島郡高砂町新野下(旧)	山形県教育委員会	新築建設	古墳・奈良・平安・中世	90.6.18-90.8.31	0
45	獅子之前遺跡	塩山町千手字獅子之前831-1, 2外	山形県教育委員会	築設	縄文・平安	90.6.18-90.7.20	1,100
46	金山遺跡	塩山町内丸の内1丁5-600-1	山形県教育委員会	住宅建設	縄文	90.6.15-90.8.30	100
47	無名墳(長田占墳群)	東八代郡静内町長田1318外	静内町教育委員会	住宅建設	縄文	90.7.1-91.3.31	3,000
48	小笠原氏館跡	中広島郡高砂町下野路538-3外	静内町教育委員会	住宅建設	縄文	90.7.20-90.11.30	36,236
49	上野遺跡	北広島郡高砂町静内上野1446-1	静内町教育委員会	住宅建設	古墳	90.7.20-90.11.30	80
50	上野遺跡	北広島郡高砂町静内上野1446-1	静内町教育委員会	住宅建設	縄文・平安	90.7.18-90.8.20	2,100
51	三野遺跡	東八代郡静内町長田14916外	静内町教育委員会	工業用地造成	縄文・古墳・平安・中世	90.7.15-90.8.31	380
52	三野遺跡	東八代郡静内町長田14916外	静内町教育委員会	工業用地造成	古墳・平安・近世	90.7.15-90.8.31	70
53	長沢新野安清の池遺跡	南広島郡高砂町長沢新野2177 4左記	塩山町教育委員会	道路建設	弥生・古墳	90.7.20-90.7.31	647
54	天神前遺跡	塩山町三日月町286	塩山町教育委員会	道路建設	縄文・平安	90.8.1-90.8.24	10,000
55	乙木田遺跡	塩山町下竹森字乙木田1027・1031・1741外	山形学院大学考古学研究会	学術研究	縄文	90.8.17-90.9.30	100
56	後田遺跡	東八代郡静内町長田16-3, 6-4	石和町教育委員会	住宅造成	縄文・古墳	90.7.23-90.7.31	80
57	大野遺跡	北広島郡高砂町高砂2177 4左記	北広島郡高砂町教育委員会	道路及びのり面造成	縄文・近世	90.7.30-90.9.30	3,000
58	藤之原(中山)金山遺跡	西八代郡静内町藤之原字牛(430)	藤之原金山遺跡発掘調査会	学術調査	中世・近世	90.7.30-90.9.30	27,167
59	藤之原の跡遺跡	藤八代郡静内町藤之原字牛(430)	藤之原金山遺跡発掘調査会	学術調査	縄文・近世	90.8.1-90.8.31	3,325
60	上原遺跡	北広島郡高砂町上原1446外	高砂町教育委員会	工業用地造成	縄文・古墳	90.8.1-90.10.15	26,000
61	上原遺跡	北広島郡高砂町上原1446外	高砂町教育委員会	工業用地造成	縄文・平安	90.8.31-90.10.15	10,000
62	天神前遺跡	塩山町三日月町286-83	塩山町教育委員会	住宅造成	縄文・平安	90.8.22-90.8.31	200
63	甲ノ出遺跡	北広島郡静内町甲ノ出18768-83	北広島郡静内町教育委員会	住宅造成	縄文	90.9.10-90.9.30	657
64	甲ノ出遺跡	北広島郡静内町甲ノ出18768-83	北広島郡静内町教育委員会	住宅造成	縄文	90.8.15-90.8.31	333
65	宮田遺跡	宮田町新野町宮田1298	宮田町教育委員会	公園建設	縄文	90.9.3-90.9.14	36
66	宮田遺跡	宮田町新野町宮田1298	宮田町教育委員会	公園建設	中世	90.9.3-90.9.30	859
67	狐乙古墳	東八代郡静内町狐乙字山1431	石和町教育委員会	住宅造成	縄文・古墳	90.8.27-90.9.30	814
68	狐乙古墳	東八代郡静内町狐乙字山1431	石和町教育委員会	住宅造成	縄文・奈良・平安	90.9.10-90.9.29	100
69	吉原遺跡	富十津田町大明児字吉原4260-1(舊地)	吉原町教育委員会	学術調査	縄文	90.5.17-91.3.31	1,550
70	底出口遺跡	中広島郡高砂町底出口	山形県教育委員会	道路建設	縄文・古墳	90.5.7-90.11.30	3,300
71	東山北遺跡	東八代郡静内町東山1848外	山形県教育委員会	公園建設	縄文	90.10.8-90.10.31	300
72	石和遺跡	東八代郡静内町石和字大野4225, 4226	塩山町教育委員会	住宅造成	縄文	90.10.3-91.3.31	2,149
73	石和遺跡	東八代郡静内町石和字大野4225, 4226	塩山町教育委員会	住宅造成	縄文	90.10.15-90.10.26	1,071
74	塩山遺跡	塩山町下野路538-3外	塩山町教育委員会	住宅造成	平安		

1990年度発掘調査一覽表 No. 3

番号	遺跡名	所在	調査主体者	調査目的	時代	調査期間	面積(m <sup>2</sup> )
75	大堀田遺跡	北都賀郡上野原町上野原4216	大堀田遺跡学術発掘調査団	学術共同住宅建設	縄文	90.10.7~90.3.10	629
76	後田遺跡	東八代郡石和町石和南9-1外7番	石和町教育委員会	共同住宅建設	古墳・奈良・平安	90.10.23~91.3.31	1,444
77	上田遺跡	東八代郡石和町小石和字上田1657外5番	石和町教育委員会	共同住宅建設	古墳	90.10.23~91.3.31	2,432
78	田村遺跡	東八代郡一宮町一宮603	一宮町教育委員会	共同住宅建設	縄文・学生・古墳・奈良・平安	90.10.8~90.10.31	340
79	上原遺跡	東八代郡石和町小石和字上原1662外10番	石和町教育委員会	共同住宅建設	古墳	90.10.15~91.3.31	3,622
80	七ツ打C遺跡	中戸郡郡形町七ツ打374-1外	中戸郡郡形町七ツ打374-1外	共同住宅建設	古墳	90.10.23~90.12.21	4,500
81	堀の内遺跡	大月市富岡町高野町内3387-3外19番	大月市教育委員会	共同住宅建設	縄文・平安・中世	90.12.1~91.3.31	2,420
82	新居遺下遺跡	中戸郡郡形町十五野227外	中戸郡郡形町十五野227外	共同住宅建設	古墳	90.10.23~90.12.25	100
83	村前東A遺跡	東八代郡石和町小石和字村前東177外	石和町教育委員会	共同住宅建設	古墳	90.10.23~90.12.25	600
84	村前東B遺跡	東八代郡石和町小石和字村前東177外	石和町教育委員会	共同住宅建設	古墳	90.10.15~90.11.16	300
85	阿岳寺遺跡	塩川市上谷2026	塩川市上谷2026	共同住宅建設	古墳	90.11.15~90.12.25	1,000
86	阿岳寺2遺跡	東八代郡一宮町一宮625-3、634-2	一宮町教育委員会	共同住宅建設	古墳	90.11.1~90.11.30	500
87	宮ノ前遺跡	東八代郡郡形町御所野宮ノ前	東八代郡郡形町御所野宮ノ前	共同住宅建設	古墳・奈良・平安	90.6.23~91.3.31	5,000
88	北堂遺跡	新城市内野町上野字長田	新城市教育委員会	共同住宅建設	古墳	90.10.1~91.3.31	2,500
89	伊藤遺跡2遺跡	新城市六山町伊藤久保3218外	新城市遺跡調査会	共同住宅建設	古墳	90.12.1~91.3.31	700
90	一茶氏別荘	西八代郡三條町上野字一茶林3158外36番	三條町教育委員会	共同住宅建設	古墳・学生・古墳・奈良・平安・中世	91.12.3~90.12.27	1,000
91	高平A遺跡	甲府市西町1-1	甲府市教育委員会	共同住宅建設	古墳	90.11.15~90.12.15	300
92	長山吉塚遺跡	東八代郡郡形町下藤町1560番地外	東八代郡郡形町下藤町1560番地外	共同住宅建設	古墳	90.11.15~90.12.27	400
93	北大内遺跡	東八代郡一宮町北大内1122-1外	一宮町教育委員会	共同住宅建設	古墳・奈良・平安・中世	90.11.15~90.12.27	400
94	矢倉遺跡	東八代郡一宮町東原字倉781-1外	一宮町教育委員会	共同住宅建設	古墳・奈良・平安・中世	90.11.15~90.12.27	3,380
95	土屋敷遺跡	甲府市上野町上野字土屋敷1315外	甲府市教育委員会	共同住宅建設	古墳	90.4.2~90.11.20	5,000
96	御堂遺跡	東八代郡石和町上野字289-2	東八代郡石和町上野字289-2	共同住宅建設	古墳・奈良・平安	90.11.27~91.3.31	400
97	八王子遺跡	東八代郡石和町八王子483外13番	東八代郡石和町八王子483外13番	共同住宅建設	古墳・奈良・平安・近世	90.12.10~90.12.26	8,590
98	八代遺跡	塩川市上谷町437	塩川市上谷町437	共同住宅建設	古墳・奈良・平安・近世	91.1.27~91.2.21	260
99	馬場遺跡	東八代郡石和町松本字清水920-1	東八代郡石和町松本字清水920-1	共同住宅建設	古墳	90.12.25~91.3.31	969
100	高平山平遺跡	東八代郡郡形町高平山1398-1外	東八代郡郡形町高平山1398-1外	共同住宅建設	古墳・奈良・平安	90.12.25~91.3.31	156
101	川上遺下遺跡	中戸郡郡形町下津津川字上遺下100外	中戸郡郡形町下津津川字上遺下100外	共同住宅建設	古墳・奈良・平安	91.1.29~91.2.28	468
102	松畑遺跡	山梨市歌田字松畑59-1	山梨市歌田字松畑59-1	共同住宅建設	古墳・奈良・平安	91.2.1~91.2.15	2,600
103	磯崎遺跡	東八代郡郡形町大原3394外	東八代郡郡形町大原3394外	共同住宅建設	古墳・奈良・平安	91.2.12~91.4.30	286
104	磯崎B遺跡	東八代郡郡形町大原3394外	東八代郡郡形町大原3394外	共同住宅建設	古墳・奈良・平安	91.2.18~91.3.22	1,674
105	磯崎C遺跡	東八代郡郡形町大原3394外	東八代郡郡形町大原3394外	共同住宅建設	古墳・奈良・平安	91.3.20~91.4.30	1,674
106	磯崎D遺跡	東八代郡郡形町大原3394外	東八代郡郡形町大原3394外	共同住宅建設	古墳・奈良・平安	91.2.4~91.3.4	780
107	岩野遺跡	中戸郡郡形町須賀山字山528外	中戸郡郡形町須賀山字山528外	共同住宅建設	古墳・奈良・平安	91.3.8~91.3.31	40
108	平野遺跡	南巨摩郡白州町台ヶ原字平野	南巨摩郡白州町台ヶ原字平野	共同住宅建設	古墳・奈良・平安	91.3.4~91.3.22	1,600
109	照敷平遺跡	北巨摩郡白州町台ヶ原字照敷448外	北巨摩郡白州町台ヶ原字照敷448外	共同住宅建設	古墳・奈良・平安	91.3.15~91.6.29	7,800
110	高平字山平遺跡	東八代郡郡形町高平山1415-1	東八代郡郡形町高平山1415-1	共同住宅建設	古墳	91.3.28~91.4.12	24

## 年 報 7

印刷日 平成3年3月25日

発行日 平成3年3月31日

発行所 山梨県埋蔵文化財センター  
山梨県東八代郡中道町下曾根 923  
TEL. 0552-66-3881

印刷所 磯 峽 南 堂 印 刷 所

